

文化財総覧WebGISシステムによる地理情報を付加した 木簡・墨書土器など出土遺物・遺構のデータベース化 渡辺 晃宏

本科研の二つの目的のうちの一つ、木簡の情報を地理情報を加味した発掘調査成果（遺構及び共伴遺物）とリンクさせるシステムの開発は、奈文研の全国文化財検索と連携し、「文化財情報WebGISシステム」という形で実現することができた。当面は奈文研が調査を担当した平城宮・京跡内の木簡のみを対象とするが、全国の木簡を対象とするプラットフォームは構築できたといってよい。また、木簡の共伴遺物として、平城宮跡出土の墨書土器を検索するシステムを構築した。将来的には、木簡・墨書土器以外のあらゆる遺物・遺構をリンクさせる、総合的な発掘調査成果閲覧・検索システムへの発展が期待できる。

上記のシステムについては、ここで多元を弄するよりも実際にシステムをお使いいただくにしくはないと思うので、本書では研究開発成果の紹介を兼ねて、**文化財総覧WebGISの操作方法**を、以下にまとめておくこととする。

【文化財総覧WebGISの操作方法】

1、下記URLへ移動してください。

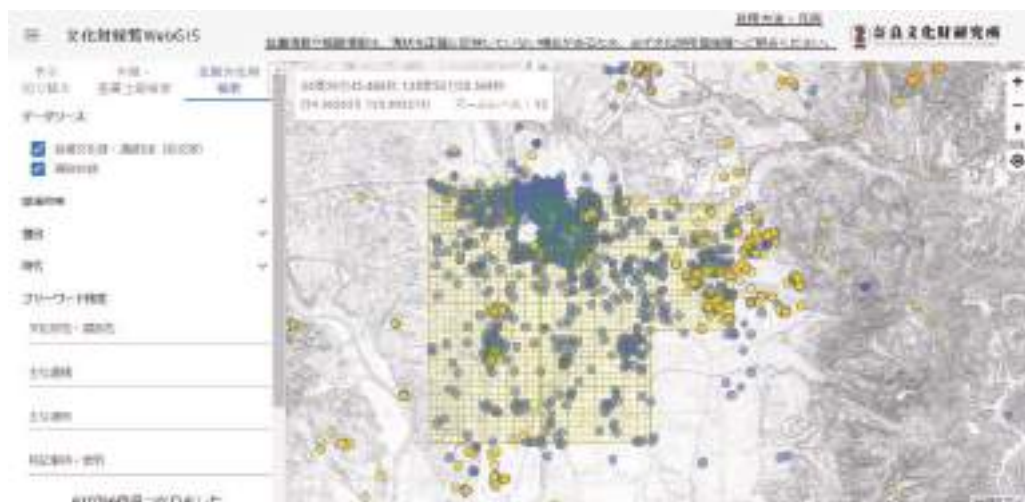
<https://heritagemap.nabunken.go.jp/>

「利用規約を読んで始める」をクリックすると、「利用規約」が開きます。

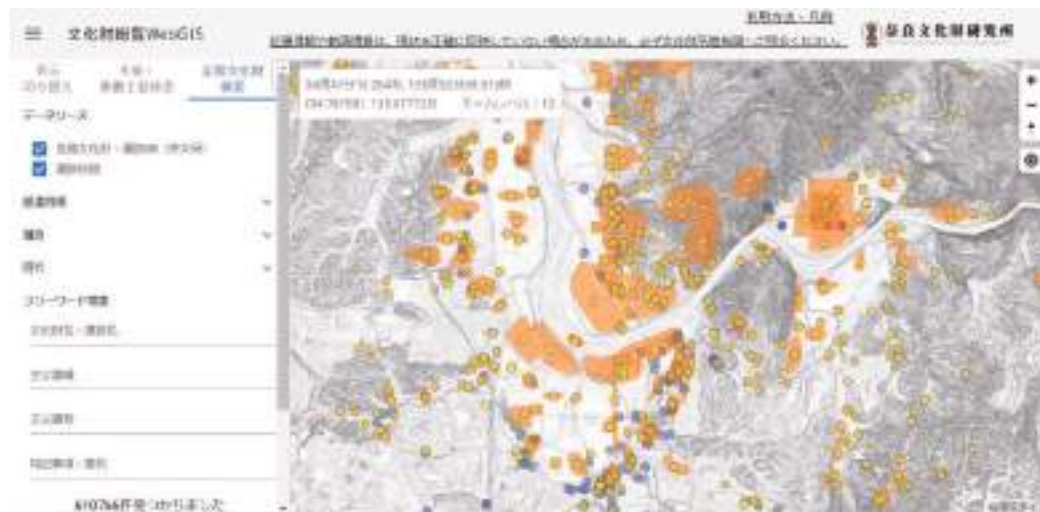


2、「同意して始める」ボタンを押してお入りください。

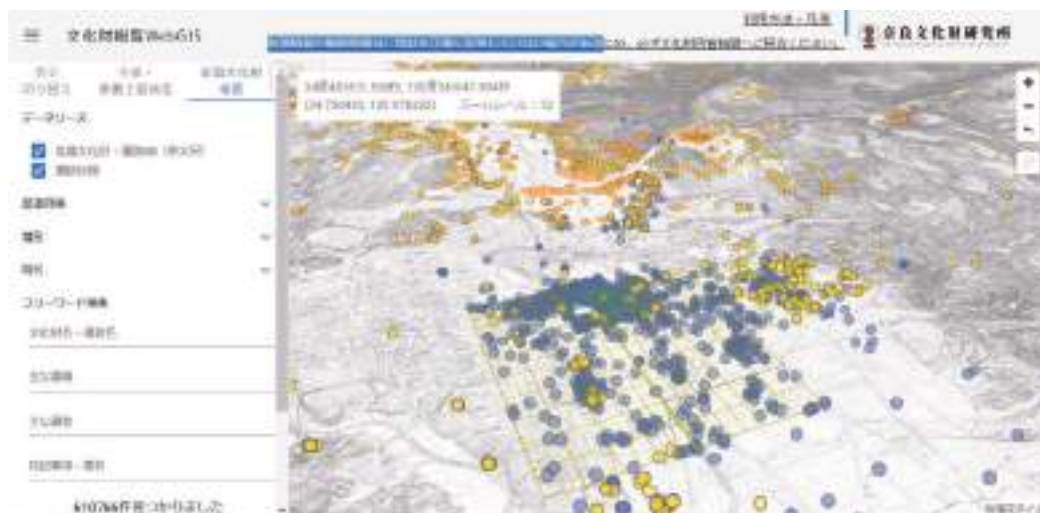
3、平城京跡周辺が表示されます。 1)背景地図は、地理院地図（淡色地図）＋傾斜量図、及び平城京条坊図がデフォルトで表示されます。



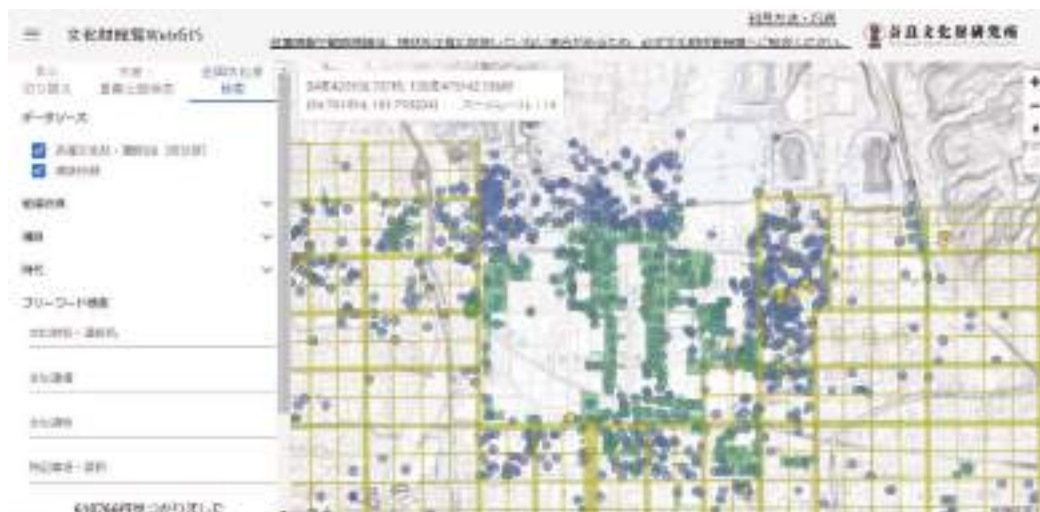
2) 地図の表示範囲を変えるには、マウスの左ボタンでドラッグします。



3) マウスの右ボタンでドラッグすると、地図を平面的にだけでなく、立体的に回転させることができます。



4) 地図の縮尺を変えるには、画面右上の「＋」ボタンを使います（＋は拡大、－は縮小）。地図上をダブルクリックすることで、一定の割合で順次拡大することもできます。



- 5) 上記の縮尺（ズームレベル）によって、画面表示が変わる場合があります。例えば、例えば、3mグリッドの小地区は、大縮尺でないと表示できないため、一定ズームレベルになるまでは、ドット表示となります。
- 6) 表示は、平城宮跡の発掘調査区（薄緑色の網かけ）、条坊図、遺跡データベースの検索結果（薄橙色の網かけ：ポリゴン、及び黄色のドット：ポイント）、遺跡抄録データベースの検索結果（薄紫色のドット）、がデフォルトになっています。
- 7) あとの二つは遺跡の範囲と調査地点を示すもので、「全国文化財情報」としての全ての遺跡を表示するものです。木簡検索に不要であれば、表示切り替え（4 を参照）でチェックを外して表示を消すことも可能です。
- 8) ポインタの位置の座標が地図の左上に表示されます。

4、表示の切り替え

1) 背景地図

- ・左上の「表示切り替え」ボタンで、「背景地図」の √ を開くと、背景地図の一覧が表示されますので、適宜切り替えて表示させることができます。



2) 遺跡情報・木簡情報

- ・左上の「表示切り替え」ボタンで、「遺跡情報・木簡情報」の √ を開くと、遺跡情報・木簡情報の一覧が表示されますので、適宜切り替えて表示させることができます。



- ・「条坊図」は、平城京の条坊復元で、これはデフォルトで表示されます。



- ・「復元図」は、平城宮の遺構配置復元で、奈良時代後半の最も代表的な様子を示すものです。



5、木簡検索の要領

- 1) 画面左端の表示切り替えボタンで、「木簡検索」を選択します。



2) 検索は次の 2 通りの検索が可能です。

a テキスト入力による検索

- ① 下記アからエまでの項目について、テキストを入力することで、該当する木簡を探し出す検索です。
- ② 複数の検索項目に同時に入力すると、**and** 検索になります。1 度検索を行ったあと、別の欄に検索テキストを入力して検索すると、絞り込み検索になります（同時入力による **and** 検索と同じ結果）。

ア 遺跡名

「平城宮跡」などの遺跡名の他、平城宮内の地域名（東院、東方官衙、東大溝など）による検索です



遺跡名「東院」の検索結果

イ 平城宮・京地区名

- ・平城宮・京跡の 3m グリッドの地区名称による検索です。
- ・平城宮・京跡には、6 A F I U O 4 5 のような 8 桁のアルファベットと数字の組み合わせによる 3m 包含のグリッドが設定されており、遺物は全てのその名称と遺構（層位）名によって取り上げられます。

6AFI：大地区

UO45：U は 6AFI 大地区内における中地区の名称

O45 は 6AFI-U の大・中地区内の小地区の名称

- ・検索は 4 桁以上の入力で行います。8 桁フルでも勿論かまいませんが、大地区(上記の例では、6AFI)、または中小地区の組み合わせ(上記の例では、UO45)での検索を想定しています。



地区名「US48」の検索結果

ウ木簡本文

木簡本文の文字ないし語句を文字数制限なしで検索できます。



本文「解」の検索結果

エ調査次数

平城宮・京跡に対する奈良（国立）文化財研究所が実施した発掘調査の通し番号による検索です。



調査次数「172(次)」の検索結果

b 地図による地点指定による検索

- ①地図上の任意の地点において出土した木簡を探し出す検索です。地点の選択は範囲指定で行います。範囲指定の要領は下記の通りです。
- ②範囲指定による検索では、指定範囲内に含まれる 3m グリッドから出土した木簡を検索します。



ア、画面左端下端の、「範囲検索モード」部分をクリックして、「範囲検索モード ON」にします。

イ、そこにも表示されますが、下記の要領で範囲を指定します。

地図上で左クリック

→ポインタを動かすと指定範囲候補が青点線と内部の青色塗りつぶしで表示されます。

→範囲を決めたらもう一度右クリックすると範囲が決定します。

ウ範囲指定を解除するには、地図上の何もない任意の地点を右クリックします。



3) テキスト入力または範囲指定が終わったら、画面左端の「検索」ボタンをクリックします。テキスト検索の場合は、エンター・キーを押すことでも検索できます。



4) 新規検索など、検索結果を消去する必要がある場合は、検索キーの右隣にある「クリア」ボタンをクリックします。

6、検索結果の表示(1)

1) テキスト検索・地図検索いずれの場合も、該当する木簡が出土している地区を赤で表示します。該当する木簡がない場合は、「入力された条件では 1 地区も検出されませんでした」と表示されます。

2) 該当地区の表示は、赤く塗りつぶした方形のグリッドで表示しますが、一定のズームレベルになるまでは、そのような表示が難しいため、赤色のドットで表示します。



木簡出土地区ドット表示（縮尺が小さい場合）



木簡出土地区グリッド表示（一定の縮尺より大きくした場合）

7. 検索結果の表示 (2)

- 1) ヒットした小地区の木簡の情報を表示させるには、ポインタをヒットした小地区に動かします。
- 2) そうすると、通常手のひら型のポインタが、人差し指を伸ばした指先指示型に変わります。ズームレベルを大きくすると、操作がよりわかりやすくなります。





当該木簡の URL による木簡データベース「木簡庫」の詳細データの表示の例

- 5) 当該地点の発掘調査次数の表示 2 をクリックすると、当該地区を調査した発掘調査の調査次数が表示されます。発掘調査区の任意の位置をクリックすることによっても同様の表示ができます。



8、今後の課題

- 1) 7の木簡データの表示の逆方向の移動、すなわち「木簡庫」の各木簡の出土地区をクリックして、当該地区の位置を、文化財総覧 WebGIS の地図上に表示させること。
- 2) テキスト検索のうち、木簡・墨書土器本文で検索した場合は、目的の木簡と同一小地区で出土した木簡が全て表示されます。すなわち共伴資料の検索が可能になるわけですが、検索した木簡・墨書土器が先頭に表示されるとは限りません。この点を改めて、検索した語句を含む木簡を先頭に表示させ、かつ当該語句の部分の色を変えるなどして強調表示できるようにすること。
- 3) ヒットした小地区から出土した木簡・墨書土器以外の遺物を表示すること。奈良文化財研究所では、各地区から出土した木簡のみではない全ての種類の遺物を管理するシステムの構築を図りつつあるので、小地区データを用いて、それらを種類別（墨書土器、木製品、土器、瓦……）に表示させるシステムを構築すること。